

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第6号を下記のとおり発表したので送付します。

令和4年度病虫害発生予察特殊報第6号

令和4年9月21日

岡 山 県

1. 病虫害名 ネギハモグリバエ バイオタイプB
Liriomyza chinensis (Kato) biotype B
2. 発生作物名 ネギ
3. 特殊報の内容 本県における初発生を確認
4. 初発生確認月日 令和4年8月9日
5. 発生確認場所 岡山県北部
6. 発生面積 10a
7. 発生状況

令和4年8月に岡山県北部の露地ネギ圃場で、本種と疑われるハモグリバエの食害による被害が確認された。農研機構 野菜・花き研究部門に同定を依頼したところ、本県で未発生のネギハモグリバエバイオタイプBと同定された。

国内で本バイオタイプは、平成28年に京都府での発生が初めて報告され、令和4年9月現在で、青森県から鹿児島県に至る本州、四国、九州の33都府県から発生予察特殊報が発表されている。

8. 生態及び被害

- 1) 本バイオタイプは、従来発生していたバイオタイプAとは遺伝的に異なる。本バイオタイプの由来や海外での発生状況の詳細は不明であるが、同じ遺伝子配列のネギハモグリバエが中国から報告されている。
- 2) 本バイオタイプは、バイオタイプAとは食害痕のパターンが異なり、バイオタイプAの食害痕は不連続な断続線状の食害痕を形成する(写真1)が、バイオタイプBは不規則な連続線状の食害痕を形成する(写真2)。また、1か所から多数の食害痕が伸びて互いに繋がりが(写真2)、面的に白化するなど、バイオタイプAよりは激しい被害となる。
- 3) 成虫の外部形態は従来のバイオタイプAと差がない。
- 4) 成虫は葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹になる。

9. 防除対策及び参考事項

- 1) 本種の防除には、ネギハモグリバエやハモグリバエ類に登録のある薬剤を用いて、作物ごとの登録内容に従って防除する。
- 2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

3) 老熟幼虫は食害痕から脱出して株元の地表又は土中で蛹になる。収穫後の被害株や残渣は次作の発生源となるので、ほ場から持ち出して処分する。



写真1 バイオタイプAの食害痕
断続線状に途切れる



写真2 バイオタイプBの食害痕
途切れない連続線が面的に繋がる
1か所から多数のせん孔が伸びる

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

